

Children's World Water Forum Follow Up in Hokkaido

世界子ども水フォーラム・
フォローアップ in 北海道2010
日本最大級の、子ども水会議

H₂O KKAIDO



世界子ども水フォーラム・ フォローアップ in 北海道2010

開催趣旨

近年、世界中で、気候変動に起因するのではと考えられるような深刻な水不足、洪水による大きな災害が発生しており、その他にも水汚染、地下水渇涸、湖沼の面積激減などの多面的な水危機が問題となっています。

日本における私たちの生活の中でも、近年の局地的豪雨による水災害の頻発から、気候変動の影響が水害や水利用といった私たちの身近な「水」に及んでいるのではないかと多くのの方々に意識されてきているといえます。

このような世界の水危機について国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として1997年より3年に一度、「世界水フォーラム」が開催されています。そして、2003年に日本（京都・大阪・滋賀）で開催された「第3回世界水フォーラム」では主要な分科会のひとつとして、次の世代を担う中学・高校生の若者たちが中心になって考え、議論するために、「第1回世界子ども水フォーラム」が開催され、日本の中高生も多数参加しました。この時、世界中の子どもたちの日常における水への関わり方の違いなど、日本の子どもたちは大きな衝撃を受けましたが、一方で子どもたち自ら考え、行動を起こしていることについて誇れることも知りました。

「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」は、この「世界子ども水フォーラム」の経験や情報を引き継ぎ、水に関する諸問題の解決策の普及・啓発と子どもたちのネットワーク構築等による人材育成を目的として、2003年より毎年開催しています。

その後、2006年に第2回大会がメキシコにて2009年に第3回大会がイスタンブール（トルコ）にて開催され、いずれもこのフォローアップから選抜した代表者が参加し、水問題解決のための行動等についての議論や発表を行い、世界各国の子どもたちと意見交換を行ってきました。

「世界子ども水フォーラム・フォローアップin北海道2010」においては、このような世界の水に関する諸問題や自分たちが行っている水に関する活動等について、お互いに議論し、考え、発表する機会を提供することにより、身近な水問題が世界の環境問題に深くかかわっていることを認識し、子どもたち自身の活動の更なる発展を期待するとともに、日本国内で活動する子どもたちのネットワークを広め、さらに次回世界大会に向けての視野を広げていくことを目的として開催するものです。

目次

開催趣旨	1	第1分科会	13
開催目的	2	第2分科会	15
開催概要	2	第3分科会	17
特徴と効果	2	第4分科会	19
大会プログラム	3	第5分科会	21
大会の様子		第6分科会	23
1日目/8月2日（月）	4	フォローアップin北海道2010に参加して	25
2日目/8月3日（火）	7	関連ウェブサイトのご紹介・参加者一覧	26
3日目/8月4日（水）	10	実行委員・運営スタッフ一覧	26

開催概要

フォローアップin北海道2010の開催目的

本大会は以下の4つの目的のもと開催されました。

- ①世界子ども水フォーラム及びフォローアップ大会における経験及び成果を引継ぐ。
- ②水に関する活動を広げていくため、自分達子どもができることを議論する。
- ③子どもたちの水に関するネットワークを構築する。(同じ仲間がいることを知る。)
- ④次世代を担う若者たち、子どもたちを育成する。

フォローアップin北海道2010の開催概要

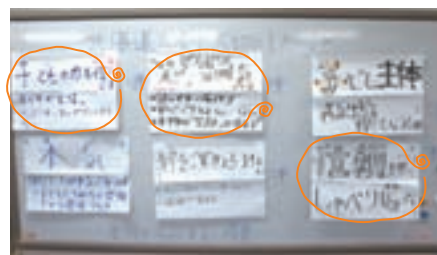
- ①開催日程：平成22年8月2日(月)～4日(水) 2泊3日
- ②開催場所：北海道立洞爺少年自然の家(ネイパル洞爺)
- ③主催：世界子ども水フォーラム・フォローアップin北海道2010実行委員会
- ④共催：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
- ⑤後援：文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、北海道、北海道教育委員会、洞爺湖町、NPO法人日本水フォーラム、NPO法人自然体験活動推進協議会、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会、(社)ガールスカウト日本連盟

フォローアップin北海道2010の特徴と効果

- ・水に関心を持っている、さらに自ら活動している中高生を全国から募集
- ・水問題に関する作文審査による選抜
- ・OB・OG等からなる大学生・大学院生がファシリテーター等の運営スタッフとなり、大会運営の中心的役割を担う
- ・自分達自身の活動発表やグループ討議の結果を発表することによるスキルアップ
- ・自分達の活動に対する改善と他への普及に向けてのネットワークの構築



スタッフのファシリテーション能力向上のため運営スタッフ講習会を開催
(講師：守随純子氏)



本大会本番に向けて、『3つの大切にしたいこと』を決定！



大会プログラム



8月2日(月)

11:00 受付開始

(新千歳空港・会議室3A)

★分科会担当ファシリテーター等顔合わせ

★写真撮影(自己紹介シート用)

12:35 開会式

(新千歳空港・会議室3A)

(進行:運営スタッフ)

★開会宣言(参加者代表)

★開会挨拶(実行委員長)

★実行委員紹介

★開催趣旨説明

13:00 オリエンテーション

(新千歳空港・会議室3A)

(進行:運営スタッフ)

★スケジュール説明

★本大会の注意事項

★全スタッフ紹介

13:15 アイスブレイク

(新千歳空港・会議室3A)

(進行:運営スタッフ)

★名刺交換会

★アクティビティ

13:40 洞爺へ移動(バス)

(進行:運営スタッフ)

各分科会で乗車

★アクティビティ

16:00 到着・説明

(洞爺少年自然の家)

★町長挨拶(体育館)

★館内利用説明

★記念撮影(屋外)

16:30 分科会①(つどい室)

★自己紹介(事前学習レポート発表など)

18:00 夕食(食堂)

★各分科会で食事

★20:00までに入浴

19:00 分科会②(つどい室)

★各分科会での討論

22:00 後片付け・就寝準備

22:30 就寝

8月3日(火)

7:00 起床

7:30 朝食(食堂)

8:30 体験活動(洞爺湖)

★本日のスケジュール確認

★水に関する体験活動等

Eポート、カナディアンカヌー、カヤック
を利用し安全講習および体験活動

12:00 昼食(食堂)

13:00 分科会③(つどい室)

★体験活動の振り返り

★各分科会での討論

15:00 交流会(談話室)

(進行:運営スタッフ)

★参加者全員でワークショップ

(ウィッシュボエムなど)

16:00 分科会④(つどい室)

★各分科会での討論

18:00 夕食(食堂)

★各分科会で食事

★20:00までに入浴

19:00 分科会⑤(つどい室)

★各分科会発表準備

★各分科会成果取りまとめ

22:00 後片付け・就寝準備

22:30 就寝

8月4日(水)

7:00 起床

7:30 朝食・後片付け等退所準備

8:30 出発・新千歳空港へ移動

11:00 全体発表会

(新千歳空港・大会議室2A)

(進行:運営スタッフ)

★各分科会の成果発表

(発表15分, 質疑5分, 委員コメント5分)

※委員コメントは各分科会毎に1,2名

★意見交換

13:30 昼食

(新千歳空港・大会議室2A)

★さよなら交流会(立食)

ユースなど活動報告

14:30 閉会式

(新千歳空港・大会議室2A)

(進行:運営スタッフ)

★講評(実行委員)

★閉会宣言(参加者代表)

★閉会挨拶(実行委員)

★記念撮影

15:30 解散(新千歳空港)



大会の様子

1 日目

※ 8月2日(月)



新千歳空港内会議室集合～開会式

飛行機の到着が大幅に遅れるなどのトラブルが早速ありましたが、30分遅れで無事全員集合し、開会式をはじめることができました。

開会式はまず、地元北海道から参加した藤野郁乃さん(函館水産高等学校3年)による『今、私たちができることを見つけ、私たち自身の活動の更なる発展へとつなげていくとともに、全国から集まった仲間とのネットワークも広めていきたい』と、本人はいきなりの大役で緊張したとのことでしたが、全く緊張を感じさせない立派な宣言でした。

続いて、田丸実行委員長から『水の問題は、地球環境を考える上で重要です。水は多すぎても少なすぎても生き物に大きな影響を与えます。次代を担う皆さんが実践を世界に広げ、深め、今回の成果がすばらしい世界のフォローになるように願っています。』と開会挨拶を頂きました。

開会式に引き続き、運営スタッフにより、3日間の共通ルールを説明し、その後、参加者同士でもっと交流して緊張をほぐすために運営スタッフ、実行委員も加わりアイスブレイクを行いました。



参加者代表「開会宣言」
藤野郁乃さん



田丸実行委員長の
開会挨拶



アイスブレイク
(サイレントゲーム)



アイスブレイク

ブレインストーミングの練習。
実行委員も参加

アイスブレイクの内容は、事前に運営スタッフで話し合い工夫をして実施しました。「サイレントゲーム」や「ブレインストーミングの練習」などミニゲームを行いながら自己紹介や名刺交換をして徐々に緊張をほぐしました。



新千歳空港～洞爺湖少年自然の家

すこし緊張がほぐれたところで、今回のメイン会場である『北海道立洞爺湖少年自然の家（ネイパル洞爺）』に向けてバスで移動しました。

アイスブレイクの続きはバスの中でも行い、「^{ぼろと}茨戸」「^{えさし}枝幸」など北海道の地名を読み当てるクイズや、与えられた「キーワード」を言わせるように会話するゲームを行い、できるだけコミュニケーションが取れるようにもしました。このクイズやゲームの内容も運営スタッフが事前に話し合って決めました。



2号車



真屋実行委員（洞爺湖町長）
の挨拶

洞爺湖少年自然の家

新千歳空港から約2時間かけて洞爺少年自然の家へ着きました。

ここでは、開催地である洞爺湖町の町長の真屋実行委員にお出迎えしていただき、『洞爺湖町は飲用水に事欠かない。これは洞爺湖のおかげです。しかし、世界各地で水に困っている地域があります。そのためにも、この3日間様々なことを話し合い、みんなでスクラムを組み、健康に留意しながら有意義なフォローアップにしてください。』と、歓迎のご挨拶をしていただきました。

少しずつ緊張がほぐれてきたところで、分科会が始まりました。各分科会に別れ、3日間のルールづくりや、自己紹介を兼ねて事前学習レポートを発表し、意見交換を行いました。

その後、夕食の時間でも各分科会で交流を深めながら、少しずつ意見を出し合い、1日目のプログラムは22:00に終了しました。

第3分科会



第4分科会



第6分科会



全体写真
（洞爺少年自然の家）



洞爺湖での体験活動

午前中は、「洞爺少年自然の家」の目の前の洞爺湖で水の体験活動を行いました。日ごろ川などに入って活動することができない地域の参加者もいましたので、貴重な経験になったようです。

講師に「バイエルンの風力ヌー学校」校長の鳥畑博嗣さんをお招きし、ご指導いただきました。

Eポートとカナディアンカヌーとカヤックを使い、湖面に浮かべて楽しみながら、「ポートはひっくりかえる乗り物であること」「定員を超えると沈む乗り物であること」などを体験しました。危険を身をもって知ること、水の上で落ち着くことができたり、自分の身を守る方法や友達を助ける方法を体験するなど、参加者にとってすこし変わった安全講習となりました。

さらにEポートが洪水時には物資を運ぶ手段となるなど、防災にも役立つなどとの説明もあり、「楽しい」だけではなく、「学び」の多い、非常に印象深い体験活動となりました。



洞爺湖での体験活動

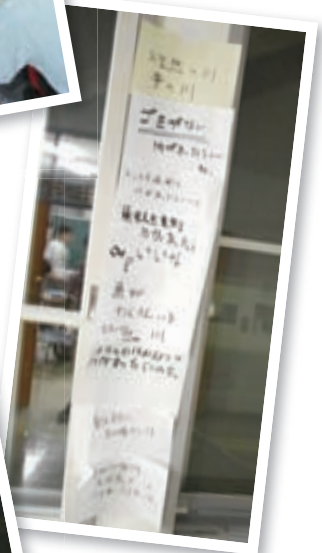


交流会「ウィッシュポエム」

昼からは、分科会毎に体験活動の振り返りを行った後、体験活動の疲れもみられたので、分科会毎の議論を一時中断し、他の分科会の参加者との交流を行うことにしました。分科会とは別のメンバーのグループになり、「ウィッシュポエム」というアクティビティを行いました。

これは、個人が考える「あったらいいな〇〇な川」（理想の川）を出し合い、個人の理想の川をグループでつなぎ合わせて「川物語」をつくり、それを発表するというものです。魚がすみやすい川からファンタの川、息ができる川など、自由な意見がたくさん出ました。

ゲーム感覚でグループの意見をとりまとめて発表することは、このあとの分科会の活動にも有益だったようです。



新たなグループで交流会
「ウィッシュポエム」



分科会の様子

交流会後、眠気が覚めたところで分科会を再開しました。

最初はファシリテーターの力を借りて議論をしていましたが、この頃になると意見も活発に出るようになり、また意見のまとめ役など自然と各人の役割分担ができるなど、わずか2日間で参加者自ら積極的に話し合いながら分科会として議論をとりまとめるま

で成長していく様子をはっきりと見てとれました。

そして、夕食後には翌日の全体発表会に向け、最後の分科会を行い、発表のリハーサル等の準備を行っていました。

最後まで、まとめ方について悩んでいる分科会もありましたが、ファシリテーターの努力もあり、無事全員発表の準備ができました。



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会



第5分科会



第6分科会



洞爺湖にて全体写真

洞爺湖少年自然の家～新千歳空港

3日間お世話になった洞爺湖少年自然の家を後にし、発表会会場である新千歳空港へ向かいました。

慌ただしく出発してしまった為「自然の家の人にお礼を言う機会がなかったなあ」と参加者より

全体発表会

発表会では2日間話し合った内容について、会場を教室にみたく先生役になり他の参加者に質問をしながらすめたり、川に対する気持ちの変化や考えを演劇形式で表現したりと、どの分科会も分かりやすく工夫しながら個性豊かに発表していました。

限られた時間の中で、自分たちの意見をいかに他者に伝えるかを考え実践することは、参加者にとっては良い経験になったようです。



全体発表会の様子
(第1分科会)

さよなら交流会

参加者および運営スタッフとの最後の交流として昼食を兼ねて「交流会」を行いました。

参加者たちは3日間一緒に過ごした仲間たちとの別れを惜しんでいました。

ここでは、高校を卒業してもできる活動について、「東京水ユース」の案内をしました。また、日頃活動している内容について、紹介する参加者もいました。

第2分科会



全体発表会の様子
(第5分科会)



閉会式

閉会式では、参加者から感想をいただきました。

『初日は緊張して何かさっぱりわからなくて、しゃべることもなかったですが、2日目の体験活動ではしゃいで暴走してしまったけれど、みんなと交流できてよかったです。とても楽しかったです。』橋梅和音さん。

『すごく楽しかったです。カヌーも楽しくて、倒れたけれど、倒れるのが楽しかった。交流会が豪華でビックリした。来年もこれくらいにしてほしいです。』浅川麗香さん。

『多く参加しているけれど、今回は全部楽しくて、みんな仲良くしてくれて良かったです。学んだことも多く、家に帰っても皆に伝えていきたいと思うし、来るなら来年も来てみんなに会いたいと思います。』曽根裕子さん。



丹波実行委員の
全体講評



相田実行委員の
全体講評



浅川麗香さん



橋梅和音さん



曽根裕子さん

3日間参加された丹波実行委員および相田実行委員から全体講評をいただきました。

丹波実行委員『今回の大会に参加して、いろいろと気付かされました。ペットボトルだけみても時代の変化を感じました。ゴミ拾いも一人ではできないとありましたが、ひとつの団体だけではなく、他の団体と話をすることでいろいろなことができると思います。これからも様々なことに挑戦してほしいです。今回、とても有意義な時間をすごせて感謝しています。』

相田実行委員『湖に入ったことが唯一の北海道の自然との接点でしたので、次回はもっと北海道でゆっくりしてください。たった3日間ですが、いろいろ思い出しながらすごく親近感をもっています。大変だったと思いますが立派な成果をあげられて、地元に戻りましたら家族や友人に今回の大会のことを伝えてほしいです。』

と、あたたかい言葉をいただきました。



次に閉会宣言として、今回、最も遠方から参加者代表の近藤大地さんと近藤直喜さん、中富七々乃さんから『議論だけでなく、洞爺湖での体験活動を通じて各自の活動のヒントを得ることができました。水や環境について人と人とのつながりや、また新たな水とのつながりを結んでいきたいと思います。洞爺湖サミットの開催されたこの地で、これからの水環境を全国の仲間と話し合えたことを感謝します。』と、チームワークよく閉会宣言をしました。

また、運営スタッフから参加者へ『参加者のみなさんのエネルギーには圧倒されます。いつも学ばせてもらうことがいっぱい、感動で胸がいっぱいです。』『いちばんうれしかったことは、「こんな短い間で仲良くなれると思わなかった」という言葉が聞こえてきたことです。』など、感動いっぱいの挨拶がありました。

中嶋実行委員代理
(古市補佐)
の閉会挨拶



運営スタッフ
から挨拶



左から近藤大地さん、
近藤直喜さん
中富七々乃さんから
閉会宣言

最後に中嶋実行委員代理の古市河川環境課長補佐から参加者に『盛りだくさんのプログラムでした。この大会でみなさん刺激しあえたのではないのでしょうか。この経験をより多くの人に伝えていただきたいと思います。』

今は、インターネット等があるので、そのようなツールを使って全国のみならず水の活動の交流を続けてほしいです。大学生のスタッフが、元参加者であるなど、継続したつながりのある良い取り組みと思います。今後も続けて盛り上げてほしいです。』との閉会挨拶で世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 北海道2010大会の幕が閉じました。



事務局スタッフのコメント

灰塚果苗

最初の参加は、2003年の第1回で中学2年生で、何もわからなかった自分にいろいろ教えてくれて、今ここにすることができます。今回の参加者の中には、5年前に参加者として一緒に参加していたり、また、今年初めての参加だったり、出会った時期はいろいろだけれど、この3日間過ぎて楽しかったです。みんなが頑張っている姿をフォローアップのブログに更新しています。写真もいっぱい載せていますので、思い出の写真をダウンロードしてください。そしてみんなに自慢して下さい。

佐藤大地

おつかれさまでした。今回でスタッフは3回目です。やっぱり例年みていると、みんな元気だなと思います。3日間学んだことは、みんなにとって思い出になると思います。思い出というのはお金に替られないものですから、是非とも自分の友達や家族の人、先生、いろんな地域の人に広めていって自慢してください。これは本当によい大会なので。自慢できるものなので。



水による災害（洪水や津波、土砂災害等）

～未来を担う大人になる

災害による被害を軽減するために普段から行うべきこと。また、災害発生時・災害発生後に子ども達ができること、災害後の復旧についての子どもたちが行えることなど。



発表の概要

災害経験者の多いこの分科会では、記憶が薄れてきた災害の恐さについて、もう一度思い出し、これから自分たちができることを演劇形式で発表しました。

被災地に赴いて重労働をするのは難しいけれど、避難している人のケアや迷っているお年寄りに手を貸したり、被災後のゴミ拾いや募金活動など、被災地へ行けなくても、役に立つことはたくさんあり、そのことを人々に伝えて行くことで、いざというときに備えることができるということを発表しました。



実行委員コメント

●洪水による被害を減らすために中高生ができるソフト対策について上手に演技をしてくれました。一方、ハード対策といって、洪水があふれないように堤防を造ったり、ダムで一時的に雨水を貯める施設もあります。九州の大学生がボランティア活動の体験後に話していたことが「被災地は電気や水道、泊まる所も無いので、覚悟がいる。」とのこと。手伝いに行ったつもりが、被害者のお世話になってしまうわけにはいけないので、行く時には、経験者の情報を聞いて行ってください。

●良くまとまっています。普段、子どもにできることは小さいことが多いと思います。自分達が学んだことを親に話すだけでも水害を減らす取り組みとなります。昔の人は身をもって体験しているが、最近は大人でも知っているとは限らないので、活動をしているみなさんが話をしてほしいです。年配の方など、知識を持っていない人に声をかけてあげることは大切なことと思います。大人でも水害の恐ろしさを理解している人は多くないので、様々な体験を吸収して大人になっていただきたい。

ファシリテーター・記録係のコメント

●分科会では、3日間議論が行き詰って、沈黙になることも結構あったりして、僕のファシリテーターとしての技量がまだまだで皆さんにご迷惑をかけて申し訳なかったと思うと同時に、こんなファシリテーターでもちゃんと輪に交えていただけてありがとうございました。

この3日間出た結論というのは、みんなが自分の中で持っているものを出して自分たちで作ったものなので、それに自信を持ってまたそれぞれのところに帰って活動に活かしてほしいと思います。3日間ありがとうございました。

●フォローアップ大会は初めてで不安とかいろいろあったけど、実際やってきて、暖かい雰囲気というか、こんな僕も仲間に入れてくれてすごうれしかったと思います。みなさんよくがんばったと思います。ありがとうございました。



ファシリテーター
湯谷 啓明



記録係
鈴木 健汰

未来を担う大人になる

第

1

分科会

～ 災害は忘れたころにやってくる ～

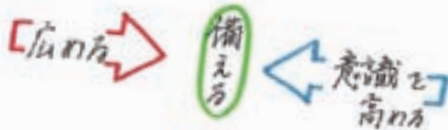
兵庫県 佐用町，山口県 防府市，福岡県，...

豪雨から1年経ちました。その豪雨の記憶が薄れてきています。

そこで、「事前」と「事後」という視点から水害を見直し、

あの豪雨を思い出しをらい、伝えよう という話になりました。

事前



- ・意識が高まることにより、防災意識が高まり、広まってくる
- ・自分達が広めることにより、他の子ども達をはじめ、様々な人の防災意識が高まる

- ・被害が少なくなる
- ・子どもが水害について考えることが出来る
- ・子どもも復旧に協力できる
- ・水害について考える子どもが増える

一度起こった災害は忘れられず、大から大へ



事後

これから教達かするべきこと

土のうをこいて、いつ災害がきても被害を減らす **工藤 拓也 (くどう たくた)**

ゴミ捨てをしないようにする
ゴミ捨てをして、ゴミが流れないようにする **山本 悠莉 (やまもと ゆり)**

起こった災害を風化させない
けに、出来ることをやっていく **岩橋 祐太 (いわはし ゆうた)**

山で子どもが分るけに
水害を分るけに広めていく **吉野 智美 (よしの ちみ)**

周りのみんなに伝えていく **木原 菜摘 (きはら なづみ)**

興味がない人を
引き込んでいく **仲野 健太郎 (なかの けんたろう)**

*ファシリテーター 湯谷 啓明 (ゆたけ けいめい)

*記録係 鈴木 健汰 (すずき けんた)

Members



工藤 拓也
青森県 高3



岩橋 祐太
兵庫県 高1



木原 菜摘
山口県 中2



山本 悠莉
愛知県 中3



吉野 智美
山口県 高1



仲野 健太郎
福岡県 中3

第1分科会は...

はじめは、「黙りこまない」「遠慮しない」と禁止事項ばかりだったそうですが、ポジティブに「いこうよ!」というこ

と...
「細かいことでも言っていこう」「ガンガンいこうぜ!」と、前向きな気持ちがあふれ出るルールに生まれ変わりました☆
(ブログより)

安全な川での体験活動

～「わ」をひろげよう!!

ボート等を使った川下りや生物調査等の川をフィールドとした体験活動を通して得られたことや伝えたいこと、水難事故防止のために行うべきことなど。



発表の概要

「安全とは何か」について考え、そのために何をすればよいかという切り口から、体験活動における「個人のとりくみ」と「人のつながりが必要な物」について分科会で上げられた意見を発表しました。

そこから、「輪」「和」「羽」と、実質的な地域のつながりと心のつながり、を通して未来に羽ばたくという意味をこめて3つの「わ」につなげまとめました。

実行委員コメント

●安全な川という考え方はきれいな川、遊べる川など様々な観点があるが、川は雨が降って量が増えると危険なこともあることを知ってほしい。

スローロープを遠くに投げてほしかったという話がありました。経験しないとわからなかったことと思います。

雨の降り方は、予想が付かないですが、川は本来は身近なものですので、川の情報を注意しながら楽しんでほしいです。

●夕張市で入ってはいけない川で、人が亡くなっていたことがありますが、どのような川が理解していなかったからだと思います。

川の危険性などの、知識が大切になってくると思いますが今回、体験活動を通じて川の一面を知ることができたのではないかと思います。

北海道の子どもは、大自然があることに気付いていない子どもが多いので、今後、知らせていきたいと思っています。

また、今回の「こんなことができる」と思ったことを1つでも実行してほしいです。



ファシリテーター・記録係のコメント

●みんな頑張ってくれて、ほとんど手を出さなくても、ちゃんと参加者みんなで発表の形が作れることに感動しました。常に参加者の皆の笑顔を見られた大会でしたので、エネルギーを与えてもらいました。そのエネルギーを胸に、自分自身の活動も頑張っていきたいと思っています。楽しい思い出がいっぱいです。ありがとうございました。

●初めての参加でしたが、すごく楽しかったです。第2分科会のみんなのテンションが高くてやりやすかったです。手本になれるような人間ではなかったと思うんですが、記録係として参加させていただいてとてもうれしかったです。機会がありましたらまたよろしくお願いします。



ファシリテーター
西林 ゆうか

記録係
川崎 翼



第2分科会

安全な川での体験活動

メンバー	
伊藤昇矢 [あき]	島村真依 [まの]
村山由樺 [ゆかり]	曾根裕子 [ゆきこ]
橋梅和音 [わおん]	西村中か [なか]
田邊和正 [かず]	川崎 藍 [あま]

Q. 安全って何!?

A. 安全 = 準備・確認
安全 = 日本の川
安全 = 知識・経験
安全 = 喜び



- ・準備なしでの活動は危険!!
- ・広くて深くでフニなど代わりの外国の川と比べると安全!!
- ・知識や経験がない人は安全を語れず!!
- ・やはり安全第一!!

答えは他にもまだあるから自分の中で何が安全だと思うか意見をもちろ。

安全な川でも誰もいなければ意味がない...

川に興味をもってもらうために...
右図のサイクルを考えました☆



準備

- 一、安全な川にするためにゴミ拾いなどの清掃活動をする
- 一、天候・水深などを確認しておき事故を防止する
- 一、スタッフミーティングを行い、注意事項をスタッフ全員が把握する
- 一、安全講習を行い、ライフジャケットの着方や危険な場所・生物を参加者に伝える

体験

- 一、水になれるためにEポート・カヌー・川流れなどをする
- 一、それぞれの団体で体験活動をする
- 一、レスキュー訓練などを行う

広める

- 一、自分たちの活動を新聞や会報で伝える
- 一、ワークショップなどのイベントを行う
- 一、紙はいたりをやる

以上の事は「わ」があるからできること!!

輪 交流

～地球を越えたつながり～

和 絆

～心のつながり～

羽 羽ばたけ

～さらなるステップへ～

このわを広げよう!!

Members



島村 真依
神奈川県 高2



村山 由樺
兵庫県 中3



橋梅 和音
愛媛県 高1



近藤 直喜
鹿児島県 中3



田邊 和正
広島県 中2



曾根 裕子
福岡県 高2



伊藤 昇矢
愛知県 中1

第2分科会は...

模造紙に日本地図を描きそれぞれの出身地に名前を書いていた。そこからグーッと線を引いたり、イラストと一緒に自分の活動や川の名前を書いたり。椅子に座って机を囲むのはまた違った団欒がありました! どんな日本地図に変化したのか、楽しみですね☆(ブログより)

河川環境の保全・復元・再生

～私たちの理想の河川環境

川に関わる自然環境（生態系、水質、外来種、ゴミなど）を保全するために、子ども達が行うべきことなど。



発表の概要

分科会の流れがよく分かるように、理想の川にするためにはどうすればよいかをそれぞれの意見を発表し、結果、理想の川になるまでの活動とその結果が生み出すサイクルを発表しました。

「理想の川」とは。それを実現するには「何をしたら良いか」ということを、人と川の関係・環境系・水生生物系・植物系の4分野に分けて整理しました。

大好きな川を作るには多くの人々の協力が必要であるため、「楽しいと思ってもらう」「水の大切さを知ってもらう」ための活動となる「サイクル」について発表しました。



実行委員コメント

- 何をしたら良いかきれいにまとめています。
保全・復元・再生がテーマですが、復元と再生は、一度壊したものを戻すので、大変なことです。
洪水から人々を守るために堤防を広げる工事をしています。洪水から守るために自然を壊してしまうので、できるだけ壊さないように多自然川づくりなど、自然に配慮して工事を行っています。
今後も活動を続けて広げていってほしいです。聞いていて参考になりました。
- 30年前と今の子どもで歩く歩数が一万歩違う。おそらく車社会になったからだと思います。子どもは昔公園で遊んでいましたが、今は家の中で過ごしています。ゴミ拾いなど、自分の足で歩いて感じていただきたい。
成長していく上で関わる3種類の大事な大人がいます。親、先生と近所のおじさん・おばさんです。近所の人は第三の親と呼ばれるくらい大事な人です。地域の人ともっと触れ合って、自分達の子どものに伝えていってほしいです。
- 水生生物はよくありますが、「人と川」という切り口をもうけていたことが良かったです。
復元するということは、一度悪くなったことであり、悪くしたのも人で、きれいにしてたくさんの生物が住めるようにするの人もです。
発表用紙の右のキャラクターは是非名前をつけて共有できるキャラクターにしてもらえば良いと思います。

ファシリテーター・記録係のコメント

- 初めてのファシリテーターで、最初不安だったんですけど、第3分科会のみんながとてもしっかりしていて、うまくファシリテーションできなくてもみんな頑張ってくれて、最終的には発表の形も私たちが関わらなくても、ちゃんと決めてくれて、すてきな発表をしてくれました。分科会でも一人一人キラリと光るところがあって、それを見ているのが楽しかったしうれしかったです。3日間おつかれさまでした。ありがとうございます。
- 洞爺湖で研究をしていて、ゆかりのある洞爺湖にみんなが来てくれて、洞爺湖がきれいとか楽しいとか言ってくれたり、疑問や思っていることを聞いてくれて、すごいうれしかったです。みんな、せっかくこの大会に参加したのだから、帰ってみんなにこの経験を広めてください。3日間でこんなに仲良くなれたし、広める力があると思いますので自信をもって広めてください。頑張ってください。



ファシリテーター
津谷 瑛里



記録係
安藤 達哉

私たちの理想の河川環境

理想の川にするためにはこれらの方法があります。

	河川環境の保全にできること	水生生物の再生にできること
個人	・水質調査・ゴミ拾い ・水質調査・リデュース ・家庭排水をたさないようにする	・(ビオトープ)
学校(部) 団体(小)	・水質調査 ・ゴミ拾い ・学校内の呼びかけ	・(ビオトープ) ・古魚を放りゅう
市町村 県	・ゴミ拾い ・人工の物も増やさない ・排水口の整備	・ホタルの放りゅう ・外来種の駆除 ・(ビオトープ) ・古魚の放りゅう
国 団体(大)	・トラス運動(土砂の買い上げ) ・人工の物も増やさない	・植林 ・(ビオトープ)

第3分科会

これらの活動は個人でできないことが多く、活動の継続は大変です。だから多くの人の協力が重要です。そのために川をきれいにすることの大切さを知ってもらうことが重要です。

川をきれいにしたい

もっときれいな川で活動がしたい

サイクル

楽しく活動

川がきれいになる

川のことを知り、興味をもってもらうことによってこのようなよいサイクルに多くの人を巻き込むことで川がきれいになる活動を広げることができます。

member 八鍬伸一郎 ゆうと、小笠原勇(がねむら) デグリス
なゆちさん、たかし、モリバー、どう、つーん

Members

森部 沙紀
愛知県 中2

松竹 崇志
福岡県 高2

中富 七タ乃
鹿児島県 中1

八鍬 伸一郎
山形県 高1

小笠原 勇
茨城県 中2

杉本 勇斗
愛媛県 高1

出口 巧実
福岡県 中3

第3分科会は…

みんな、夢や希望を持って活動しているのが良く分かる話し合いでした。「理想の川」でプレインストーミングすると、意見がたっくさん！出た意見がグループングするとき、「グレーソン」があった場合は、「どうする？」「こっちな？」「ここじゃない？」と、みんな話合せて決めていたのも、とっても印象的でした。(ブログより)

水環境の保全・復元・再生

～仲間が大切だ!!

水に関わる自然環境（水資源、水質など）を復元・再生するために、子ども達が行うべきことなど。



発表の概要

第4分科会は、「知る」「体験」「伝える」ことが川での安全な活動につながる。

「水環境」を良くしていくためには仲間が大切。仲間と行う清掃活動の楽しさや意義を演劇で伝えました。さらに人々に関心を持ってもらうためにできることを発表しました。

実行委員コメント

●ゴミ教育について、自身が地元の学校にはたらきかけています。

清掃事業では、「ここに捨てたらはずかしい」という意識が住民に生まれればどんどんきれいになっていきます。河川は道路と違い、市民団体にとって活動しやすい場所だと思います。

このような活動はリーダー的存在がいないと発展していきません。みなさん、リーダーとなって活動を続けてほしいです。

●（出身の）愛知県から見ると、北海道に来て千歳川をみて、ビックリしました。きれいな川にすんでいることは誇りだと思えるようになりました。

きれいな川が（千歳川）が40年たってもきれいなままだというのは多くの行政、市民、地域の努力があったと思います。

一人では変えられないけれど、人がつながれば世界が変われると思います。みなさんも他団体と一緒に協力しながらゴミ拾いなどを続けてほしいです。

ファシリテーター・記録係のコメント

●今回の大会は、移動や体験学習の疲れもあったと思いますが、3日間一生懸命議論し、たくさんの仲間をつくってくれたと思います。特に、参加者の間から「こんな短期間でここまで打ち解けられると思わなかった」という言葉を聞いた時は、「ファシリテーター冥利に尽きるなあ」と思いました。僕も参加者からのエネルギーをたくさんもらって、心から楽しかったと言える大会になりました。おしゃべりも楽しかったし、カヌーで4回くらい落とされたし、こんな楽しい思い出がいっぱいです。みなさんのおかげです。ありがとうございました。

●今回始めてこの大会にでて、分からないことが結構私の中であって、参加者に迷惑を掛けたのではないかと反省しています。第4分科会のみんなは、はじめのうちは静かな子が多いなと思ったけど、進めていくうちにどんどん打ち解けていって、とても明るく楽しい会になっていったと感じています。最後のほうになって、参加者みんなの口から「楽しい」ということばが何回もきこえてきてうれしかったです。3日間ありがとうございました。



ファシリテーター
三橋 渉



記録係
割田 麻江

第4分科会

水環境問題

わたる、あてえ、
いくの、つばさ、かいと
ボス、ポニョ、りょうきみ
メンバー

関心があると……

仲間での活動が
できる!!

排水関係

ゴミ
人工的
水質汚染
生物
温暖化

関心

仲間での活動

- ・ゴミ拾い
- ・踏表
- ・ホームページ作成
- ・地域の人に呼びかけ
- ・子供の体験活動
- ・川の生物の観察・飼育

関心を持たせるには?

- ・子供の時の体験
- ・学校行事・授業
- ・生き物を見せる
- ・飲み水の実験

お楽しみ
を
ひき出す!

仲間ができる
メリット

- ・長く続けることができる!
- ・寂しくない!
- ・効率がよくなる!
- ・興味を持たせやすい!

一人での活動

- ・ゴミ拾い
- ・生活排水に気を配る

仲間が
大切だ!!

大大大

一人はみんなのために
みんなは一人のために

Members



藤野 郁乃
北海道 高3



佐藤 遼
茨城県 中1



岩橋 希
兵庫県 中3



村上 誠一郎
広島県 中3



森本 優貴美
熊本県 中1



逸見 翼
兵庫県 高2

泉 介斗
愛媛県 高1

第4分科会は…

自己紹介のときからポストイットを活用して、「相手の良いところ」「自分も取り入れたいところ」「アドバイス」など、言葉で言うのは恥ずかしいけど伝えたいことが、たくさん書き出されていました☆第4分科会の部屋は、時間が経つにつれてポストイットの色でどんどんカラフルになっていったんですよ。(ブログより)

生活（暮らし・産業）に必要な水

～未来の水を守るために今できること

日々の生活において、必要な水（使っている水）について思うこと。また、水が足りない地域において、人間の生活や産業活動に必要な水を確保するために、子ども達ができることなど。



発表の概要

きれいな川から産業排水により汚染され、身近な活動を通じて川を取り戻すという、「段階」を演劇形式「題名：生き物のためにできること」を発表しました。

魚が住みやすい川にするにできること、未来の水を守るためにできることをまとめて発表しました。

実行委員コメント

●すばらしい劇でした。魚は移動できますが、移動できない動植物は環境に適応できない場合が多く私達の活動が大切になってきます。

また、環境が変わると環境に適した生物もいますので、人にとって便利なが他に悪い影響を与えるというプラスマイナス両方を考えて引き続き活動をしていていただきたいです。

もどいたら引き継いで周りの人と輪を広げていってほしいです。

●水は人間にとって重要であることを再確認しました。

洞爺湖は町民にとっての飲み水ですが、にごってしまったことがあり、過去に同じ体験をしました。

でも、劇のとおり、生活排水を流さない、下水施設の排水をしないなどの住民の努力によって回復したという事例がありますので、川や湖、海の活動を進めていって下さい。



ファシリテーター・記録係のコメント

●最初はおとなしい分科会で、いったいどうなることかと思ったが、皆心の中では、しっかりと自分の考えを持っていて、「言う時」が来ればしっかり意見が出せるので安心しました。みんなの言いたい事を全て言えるような場を作れたかどうかはわかりませんが、発表作りに自発的に取り組んでいる姿をみて、実は心の中にすごい情熱を秘めているんだなと思いました。短い時間の中で、きちんと発表できたのは本当に参加者ひとりひとりのポテンシャルが高かったからだと感じています。ファシリテーターとしてはすごくうれしい大会でした。短くて楽しい3日間でした。

●第5分科会のみなさんを見ていて、2日目の発表準備では、私たちが何もしていないのに、自分たちでどんどん進めて、自分達の意見をだして、そして最後に自分たちの言葉で、自分たちがこれからしていくことをまとめあげていったことはすごく意味があることだなと思いました。また、全体を見ていて、北海道が始めての人もいたと思うし、初めて会った人の中で戸惑うこともあったとおもうけど、みなさんが参加者だけでなく、スタッフや周りの方々とかに思いやりをもって接していた事が印象的でした。



ファシリテーター
佐藤 裕基

記録係
阿部 夏希



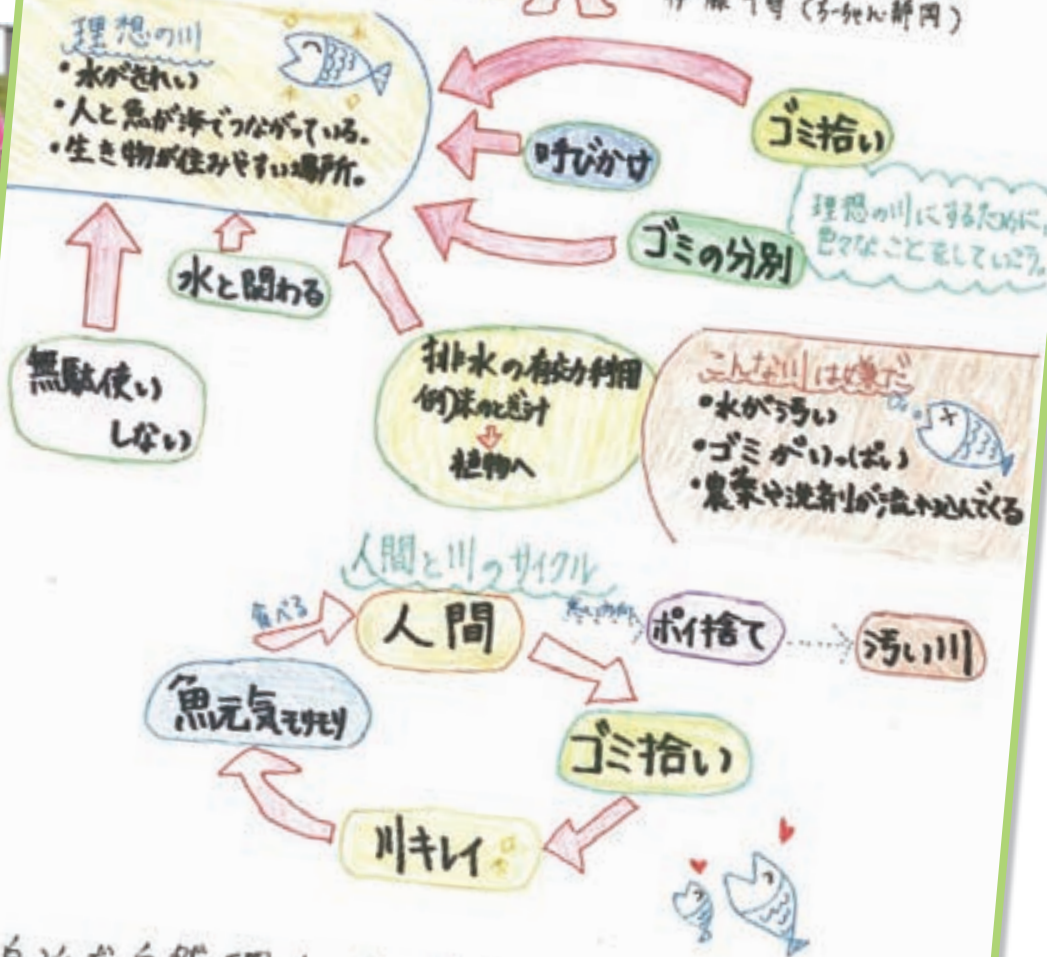
第5分科会「生活や産業に必要な水」

未来の水を守るため

今できること

<氏名>

近藤 大地 (だいち・鹿児島)
松尾 綾 (あや・福岡)
三輪 圭吾 (けいご・岐阜)
中河 由衣 (ゆい・大阪)
是國 明星 (あけくニ・茨城)
伊藤 千尋 (ちひろ・静岡)



身近な自然環境に向き合えるのは、

私たち一人一人である

by 大地

Members



是國 明星
茨城県 中2



伊藤 千尋
静岡県 中1



松尾 綾
福岡県 高3



中河 由衣
大阪府 中3



三輪 圭吾
岐阜県 高2



近藤 大地
鹿児島県 高3

第5分科会は...

すごく静かなので覗いてみると...
みんな必死に書き物中でした!
みんな黙々と作業を進めている姿が印象的でした。別の時間に覗いてみた時は、休憩おやつタイム☆
思わず「休み時間かっ!」と心の中でツツ
ゴミを入れちゃうくらいの盛り上がり
...(笑)第5分科会のメリハリ、みんなも見習おう! (ブログより)

水の歴史・文化

～水と人との文化

人類が育ててきた水に関わる歴史・文化を守り、後世に引き継ぐために子ども達ができること、伝えたいことなど。



発表の概要

河川文化について、「100年後の授業」という設定で、河川との関わり方の原点に戻り昔と今の違いについて考え、他の参加者を交えながら昔の治水技術や利水技術について、授業形式で発表しました。

「人の歴史は水の歴史」であり、知らない人や知っていてもやらない人が多い現在を、未来の理想の河川文化を目指して、知って行動してもらえるように伝えていくと発表しました。

実行委員コメント

- 「人の歴史は水の歴史」はおもしろいです。

日本の厳しい自然の中で生きてきた日本人ですので、古来より、自然との折り合いをつけてきました。

「知って行動する」「知らない人に伝える」のは素晴らしいです。一方、環境問題は難しく、人の自由を制限するかもしれません。エゴだと思われぬように伝えることが大切です。個々の自由を尊重しながら前に進んでいく必要があると思います。住んでいる世界を良く見て未来につなげて行きたいというおもしろい発表ありがとうございました。

- 「(堤防の) つくりが甘かった」とおっしゃっていましたが、確かにそうかもしれません。日本の堤防は昔からあるものを補強しながら、その時代時代の力で作っているので、堤防を点検しながら管理しています。

説明にでた円筒分水は利水の知恵です。昔は水争いで喧嘩や殺人が起こることもあったほど水争いは深刻でした。一定の割合で分配できる円筒分水は革新的な発明でした。

輪を広げることがみなさんの共通のテーマになっているようです。知らない人たちに気持ちを伝え、大きな活動にもっていくことが重要だと思います。直ぐには理解できない人も多いと思いますが、がんばってほしいです。



ファシリテーター・記録係のコメント

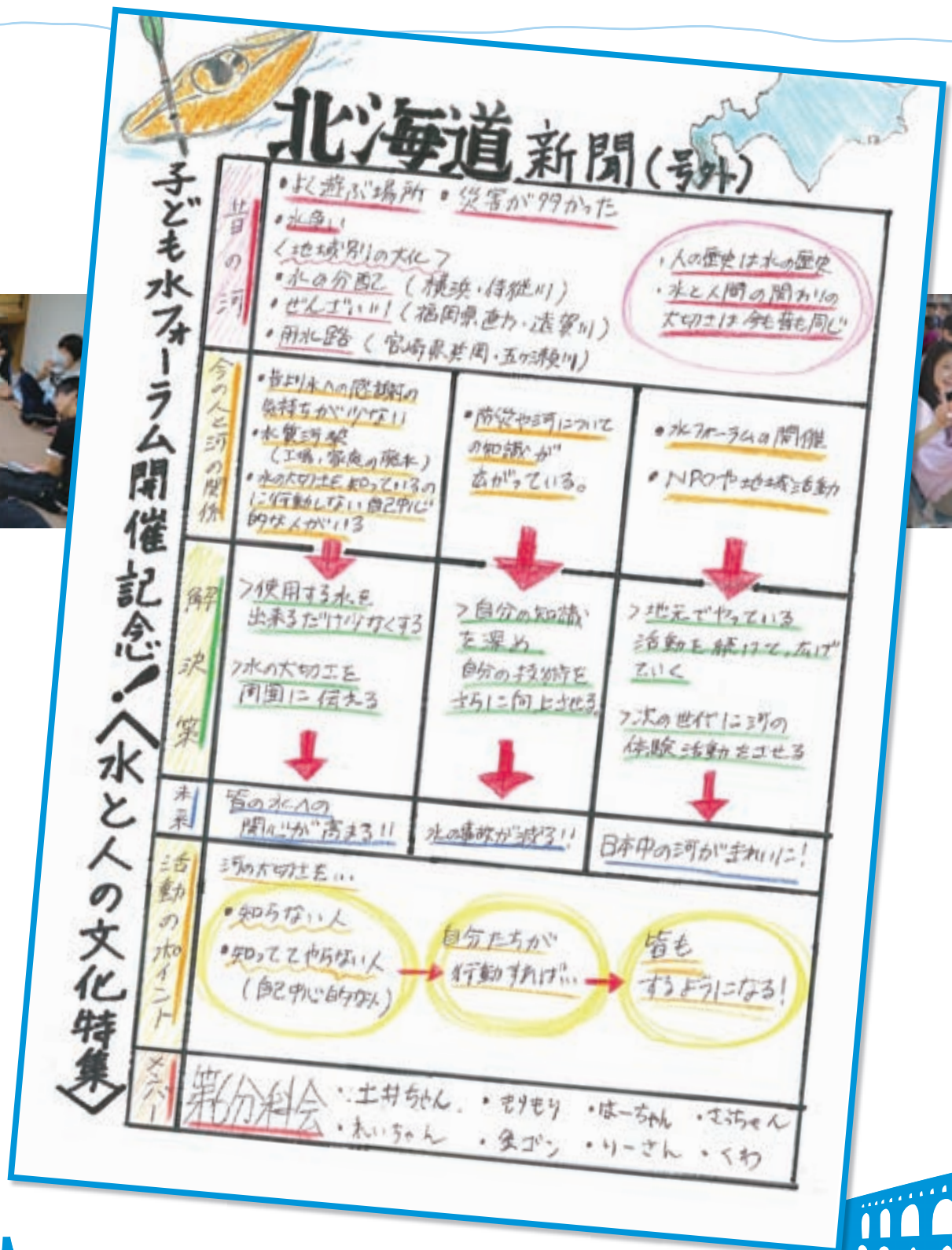
- みなさんのエネルギーにはただただ圧倒されるばかりです。最初は緊張していて、話す事がオドオドしていて、不安でいっぱいなのから、「こう思う」「そうだね」「そうなんだ」と開かれていく状態がすごく良いと思います。私自身学ばせてもらうことがたくさんで、感動で胸がいっぱいです。ファシリテーターのみなさんから、やっぱり学ばせてもらう方が多くて、とにかくいいことは「ありがとう」のひとこと。自分の中では一番有意義な大会でした。ありがとうございました。
- 周りから無口とか無表情とか言われて、接するに当たって不安だなと思っていたのですが、みなさんが議論する中に入って、自然と笑うことができました。大会を通じて、みなさんの意識が高いなと感じました。僕が中学校・高校生の時は、ほんと何も考えてなくて、それに比べると、こういう大会に参加するってのもすごいと思います。自分を持っているから参加すると思うので、素晴らしいと思います。僕もみなさんから学んだことがたくさんあったので、戻ったらこの経験をたくさん活かしていきたいです。みなさんありがとうございました。



ファシリテーター
池田 幸子



記録係
鉄本 拓



Members



盛 昭人
青森県 高2



金子 英司
神奈川県 中3



早田 亜希
福岡県 高3



浅川 麗香
東京都 中2



土井 理美
宮崎県 高2

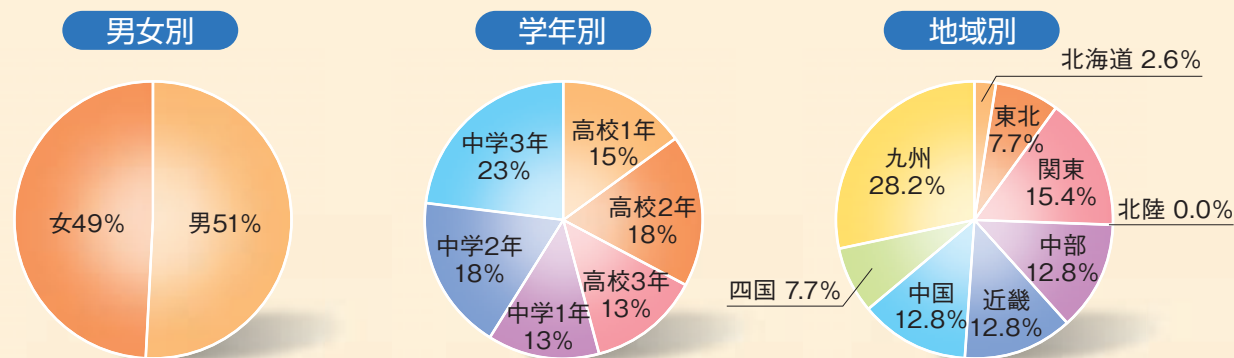


内海 里彩
広島県 中2

第6分科会は...

ルールが書かれた紙は、一人ずつ丁寧に書きこんだ【全員の力作】！
ルールのひとつ「あくびをしない」では、あくびをしたらすると、「ああ〜!!」「しちゃダメだよ!!」と盛り上がる(?) そうです(笑)
1つのルールで男女問わず、中学2年生から高校3年生まで盛り上がり続けるなんて、とってもステキです☆
(ブログより)

世界子ども水フォーラム・フォローアップin北海道2010 参加者データ



世界子ども水フォーラム・フォローアップin北海道2010に参加して

(大会のアンケート結果より)

世界子ども水フォーラム・フォローアップin北海道2010の参加者39名に、参加しての感想等についてアンケートを行いました。ほとんどの参加者は、参加したことが、なんらかの刺激となり、活動意欲へとつながっていることが分かりました。また、今大会が同じ活動の仲間としてのネットワーク形成のきっかけづくりにも寄与していると考えられます。

Q 世界子ども水フォーラム・フォローアップin北海道2010に参加して、特に何が得られたと感じていますか？

BEST3

- 1 水問題等に関心を持つ新たな仲間ができ、ネットワークが広がった **61%**
- 2 水問題等に関する新たな知識や情報を得ることができた **58%**
- 3 フォローアップ大会で得た知識や経験を自分の地域に持ち帰り伝えようと思った **42%**

Q 他の参加者と今度どのように交流していきたいですか？

BEST3

- 1 主にメールや携帯などのツールを使い、交流していきたい **83%**
- 2 他のイベントなどがあれば誘ってみたい **44%**
- 3 交流だけでなく活動の報告等もしていきたい **36%**

参加者からのコメント

- 他県との交流手段ができていい経験だった
- 自分たちの活動で実行してみようと思ったものがあつた
- 水について考えるようになった
- 水問題に取り組むには仲間が必要だと思うようになった
- たくさんの出会いがあり楽しめた
- 自分の意見に自信が持てるようになりました
- 日本全国の人達と交流できるのはとてもよかった
- 自分の意見をしっかり言う大切さがわかった
- 自分ももっとがんばらなければと思った
- 知らない人との行動もしっかりできるようになった
- 色々な知識をよく学ぶことができました
- 他の人の意見を参考にしようと思った
- 水問題について真剣に取り組むようになりました
- 水問題を周りに伝えていくべきだと思いました
- 水が大切だと思いました
- 自分ももっと何かしたいと思いました
- たくさんの友達ができてとてもうれしかったです
- 環境を守らないといけない事に改めて気付かされました
- 人の意見を聞いて、違う考え方や感じ方を知った
- 自分自身この水フォーラムを体験して変わったと思う

世界子ども水フォーラム・フォローアップブログ

<http://cwwf-f.jugem.jp/>

参加者一覧

県別	名前	性別	学年	分科会
北海道	藤野 郁乃	女	高3	4
青森県	工藤 拓也	男	高3	1
青森県	盛 昭人	男	高2	6
山形県	八鍬 伸一郎	男	高1	3
茨城県	是國 明星	女	中2	5
茨城県	小笠原 勇	男	中2	3
茨城県	佐藤 遼	男	中1	4
東京都	浅川 麗香	女	中2	6
神奈川県	島村 真依	女	高2	2
神奈川県	金子 英司	男	中3	6
岐阜県	三輪 圭吾	男	高2	5
静岡県	伊藤 千尋	女	中1	5
愛知県	山本 悠莉	女	中3	1
愛知県	森部 沙紀	女	中2	3
愛知県	伊藤 昇矢	男	中1	2
大阪府	中河 由衣	女	中3	5
兵庫県	岩橋 祐太	男	高1	1
兵庫県	岩橋 希	男	中3	4
兵庫県	村山 由樺	女	中3	2
兵庫県	逸見 翼	女	高2	4
広島県	村上 誠一郎	男	中3	4
広島県	内海 里彩	女	中2	6
広島県	田邊 和正	男	中2	2
山口県	吉野 智美	女	高1	1
山口県	木原 菜摘	女	中2	1
愛媛県	杉本 勇斗	男	高1	3
愛媛県	橋梅 和音	男	高1	2
愛媛県	泉 介斗	男	高1	4
福岡県	松竹 崇志	男	高2	3
福岡県	松尾 綾	女	高3	5
福岡県	早田 亜希	女	高3	6
福岡県	曾根 裕子	女	高2	2
福岡県	仲野 健太郎	男	中3	1
福岡県	出口 巧実	男	中3	3
熊本県	森本 優貴美	女	中1	4
宮崎県	土井 理美	女	高2	6
鹿児島県	近藤 大地	男	高3	5
鹿児島県	近藤 直喜	男	中3	2
鹿児島県	中富 七夕乃	女	中1	3

実行委員・運営スタッフ等一覧

役 割	名前	性別	所 属
実行委員長	田丸 典彦	男	北海道教育大学 釧路校 名誉教授
実行委員	丹波 紀美子	女	(社)ガールスカウト日本連盟 北海道支部長
実行委員	相田 準一	男	むかわ森・川・海を守り隊 会長
実行委員	中嶋 章雅	男	国土交通省河川局河川環境課長
実行委員	鎌田 照章	男	国土交通省北海道開発局河川計画課長
実行委員	松山 拓男	男	北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課長
実行委員	久野 顕	男	北海道建設部土木局河川課長
実行委員	真屋 敏春	男	洞爺湖町長
実行委員	河崎 和明	男	財団法人河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター長
講習会講師	守随 純子	女	(社)ガールスカウト日本連盟 副会長
体験活動講師	鳥畑 博嗣	男	バイエルンの風カヌー学校 校長
体験活動講師	菅原 浩子	女	日本カヌー連盟指導員
体験活動講師	菅原 英二	男	日本カヌー連盟指導員
体験活動講師	小出 成仁	男	日本カヌー連盟指導員
ファシリテーター	湯谷 啓明	男	第一分科会
ファシリテーター	西林 ゆうか	女	第二分科会
ファシリテーター	津谷 瑛里	女	第三分科会
ファシリテーター	三橋 渉	男	第四分科会
ファシリテーター	佐藤 裕基	男	第五分科会
ファシリテーター	池田 幸子	女	第六分科会
記録係	鈴木 健汰	男	第一分科会
記録係	川崎 翼	男	第二分科会
記録係	安藤 達哉	男	第三分科会
記録係	割田 麻江	女	第四分科会
記録係	阿部 夏希	女	第五分科会
記録係	鎌本 拓	男	第六分科会
事務局スタッフ	灰塚 果苗	女	事務局スタッフ
事務局スタッフ	佐藤 大地	男	事務局スタッフ
事務局	藤兼 雅和	男	財団法人河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	吉野 英夫	男	財団法人河川環境管理財団 研究第一部長
事務局	上成 純	女	財団法人河川環境管理財団 研究第一部
事務局	鳥越 洋生	男	財団法人河川環境管理財団 研究第一部
事務局	菅原 一成	男	財団法人河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
事務局	花田 須磨子	女	財団法人河川環境管理財団 研究第一部
事務局	及川 勉	男	財団法人河川環境管理財団 北海道事務所
事務局	稲葉 行則	男	財団法人河川環境管理財団 北海道事務所
事務局	谷 拓也	男	財団法人河川環境管理財団 北海道事務所

※2010年7月31日現在

関連ウェブサイトのご紹介

財団法人河川環境管理財団
 子どもの水辺サポートセンター
 カワナビ 国土交通省 河川局
 川に学ぶ体験活動協議会 (RAC)

<http://www.kasen.or.jp/>
<http://www.mizube-support-center.org/>
<http://www.milt.go.jp/river/link/kawanabi/>
<http://www.rac.gr.jp/>

世界子ども水フォーラム・ フォローアップ 北海道2010

事務局: (財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F
TEL:03-5847-8307 FAX:03-5847-8314

(財)河川環境管理財団 <http://www.kasen.or.jp>
子どもの水辺サポートセンター <http://www.mizube-support-center.org>

